

令和6年度 自己評価（事業所）シート

（令和7年3月31日）

社会福祉法人 愛善会
キッズスクール認定こども園

○園の概要

（幼保連携型）キッズスクール認定こども園は、キッズスクール保育園（認可外保育園）として、平成16年4月から諫早市幸町において、6名の入園児で開園し、その後、平成18年4月に現在地に移転新築。平成24年4月から認可保育園として再スタート。平成28年4月、幼保連携型キッズスクール認定こども園となり現在に至っている。

○本園の目指す保育教育

1. 十分に養護の行き届いた環境の下に生命の保持、情緒の安定を図る。
2. 健康・安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。
3. 人に対する愛情と信頼感そして人権を大切にする心を育て、自主、自立、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。
4. 生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
5. 生活の中で、言葉への興味や関心を育て、言葉の豊かさを養う。
6. さまざまな体験をとおして、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。

○本年度重点的に取り組む目標

決して固定観念にとらわれる事なく時代を先取りし、認定こども園3年目として園児一人ひとりの個性を尊重し、職員一丸となってより充実した保育教育の高みを目指す。

○評価項目別の達成及び課題状況

項目	評価・課題
本園の保育教育目標の認識度	ほぼ100%認識している
職員間、各担当間の連携度	保育教育時間の流れに沿って連携を指示してはいるものの、未だ完全連携に至っていない。 職員間の情報等のキャッチボールも濃密度が更に必要。

5 S の実施、達成状況	70%達成 残り30%は職員のアンテナの高さ、積極性を育む事が課題
保育教育内容	幼児においては、体の力、心の力、学ぶ力の醸成を中心に職員が心掛けた。乳児においては、流れる保育の定着を図ってきた。両目標とも 更なる研鑽が必要。
研修	市や県主催のこども園に関する研修のみでなく他業態主催（保育業界主催に関係のない組織）の研修にも参加させた。 井の中の蛙にならないよう異業種交流も今後は実施していきたい。
安全への取り組み	重大事故はなかったが、軽微な事故が前年度より若干増加した。 ニアミス、ヒアリハットの研修の充実を図りたい。 (安全管理委員会での報告 有り)
特別支援教育	決して無理強いすることなく、本人の意思に基づく保育教育を行った。 保育教諭は医療行為ができないので根本的解決（小学校→大人になった時に社会人としての自立を目指す）に向け、資格所持者（作業療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、社会福祉士、理学療法士等）の療育と連携し情報交換や交流を行ってきた。 療育に通わせることによって、改善が図られたと思う。 保護者との面談においては、未だに良い事ばかり言う保育教諭がいるので、毅然として小学校生活を見据え、こども園での実態を伝えることができるようにならなければならない。
保護者との連携	不足している。 要改善
地域子育て支援	子育てボランティア事業の実施、中学生職場体験、高校生職場体験の実施、地域の子育てサロンへの参加。

	「教育保育相談事業」「親子の集い事業」、 「育児支援家庭訪問事業の実施」については、 回数が不足ぎみだったので、今後は積極的に 実施していく。
幼保小連携	県主催の研修会へ参加。 今年度は長崎市の小学校との交流にも参加。 地域の小学校への訪問参加、小学校教諭との 意見交換も行った。今後は小学校教諭→当園 への訪問も実施していきたい。
取り組むべき具体的な課題、達成度	報連相の完遂。 事前承認の完遂（事後承認が多かった） 保育教育の中身の充実が不足している。 あらゆる機会を捉え、指導していく。
勤務時間管理、労務管理の職員満足度	働きやすい職場環境（仕事の持ち帰り禁止、 サービス超勤なし、45分間の子どもたちとの 完全分離休憩時間の確保）に取り組んだ。 今後は、勤務時間中の効率的且つ凝縮、濃厚 な仕事のやり方に取り組んでいく。 職員の福利厚生の実現を図る。（バーンとの 契約 計画休暇の導入 各種職員負担金の法 人切り替え等）
総評	小学校→高校生→社会人と言う連続性の中、 今を見て今を保育教育するのではなく、将来 を創造し今を保育教育していかなければなら ない。子どもたちの将来がどうあるべきか社 会の現状を的確に把握し具体的な計画を立て、 内容を深めていきたい。

○評議委員会、理事会での総体的評価

園の運営について勉強し、幼保連携型の認定こども園としての課題を認識しながら、
更なる向上を期待する。とし、概ね良好の評価を得ている。

○財務状況

税理士及び監査委員の監査を受け、妥当であると認められた。